

その結果、無処理群では卵巣の発達がみられなかったが、眼柄切除群では最高ステージⅢまで発達した。このように親エビとしてはやや小さく、無処理では卵巣の発達がみられない90g程度のエビでも、眼柄切除によりある程度成熟が促進されることがわかった。

4 ウシエビの産卵例

中城湾で漁獲されたウシエビから、産卵直前と思われるステージⅣのエビが6個体得られ、そのうち4例で産卵がみられた。2例はゾエア期で全滅したが、残りの2例で計15,500尾のP₂₀を生産した。

Ⅲ 残された問題点

- (1) 越冬条件の解明：種苗生産に使える大きさの養殖エビを得るには越冬が不可欠である。今までの実験では、越冬中の歩留りが低く、また越冬できても活力が低下し春になってから斃死するものが多い。低コストで確実な越冬方法を開発するために、温度、塩分濃度、底質そして餌料などの検討が必要である。
- (2) 眼柄切除後の飼育条件の解明：ウシエビの成熟促進には眼柄切除が有効であるが、今までの実験では産卵に到ったものは少ない。これは、眼柄切除後の飼育条件に問題があると考えられる。今後は温度、日照時間、餌料、pHなどが成熟に及ぼす影響を検討し、養殖エビの成熟促進方法の開発に努める。